

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

方上学校  
「学力向上実行プラン」

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善  
～タブレット端末を活用した授業力の向上に向けて～

学力向上推進員 渡邊 美記	委員 校長・総括 吉田 勝重
	教頭・総括補佐 長谷川 美穂
	教諭・教務主任 熊山 稔子
	教諭・研修主任 平野 みずき

校長  
吉田 勝重

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には真面目に取り組む、基礎的・基本的な知識・技能が身につけている児童が多い。 ●基礎的・基本的な知識・技能の定着に差が見られる。	・漢字の読み書きや計算プリント、タブレットでの繰り返し学習をしたり、継続的に読書をしつづけることができる。 ・身につけた個別の技能について、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・朝の活動でタブレットなどを活用し、学年にとらわれず振り返り、自主的に課題に取り組むことができるようにする。 ・既習の知識を生かすことができる、教材の工夫をしたり、場面を設定したりする。 ・読書推進のための具体的な目標を学年ごとに設定し、継続的に取り組むことができるようにする。	・自主的に課題に取り組むときに、つまづき箇所を自分ではなかなか気付きにくいので、担任から声かけが必要。 ・学校の図書室以外も移動図書館などを利用して、読書を引き続き推進していく。	・タブレットやプリントを活用して力を付けてきた児童もいるが、学力の差がある。 ・移動図書館を活用し読書環境を整えた。タブレットを活用して自分の考えを言葉で表現する力も高まりつつある。	・基礎的な力を身につけるため、学年を超え、つまづきを補う。 ・読解力に課題があるため、新聞を活用した学習を取り入れる。 ・学校全体で、学年の読書量の目標を設定し、読書意欲を高める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題解決の際に、自分の考えをもち、考えを言葉で発表することができる児童がいる。 ●自分の言葉で発表することが苦手な児童や考えをもっていても、自分の意見に自信がもてず、考えを伝えられない児童がいる。	・友達の意見をしっかりと聞き、自分の意見との違いに気づいたり、参考にしたりすることで、自分の意見を伝えることができる。 ・タブレットなどを使用し、自分の考えをまとめたり、整理したりすることを通して、自分の意見を表現することができる。	・ペアやグループで意見を交流してから発表することで自分の考えに自信をもてるようにする。 ・発表ナビを作成し、自分の考えを友達にうまく伝えられるように支援する。 ・聞き方ナビ、話し方ナビ、発表ナビを作成し、自分の考えを伝えられるようにしたり、友達の意見を聞いたりすることができるように支援する。	・自分の考えをもってはいるが、自信がないため友達に発信ができない。自分の考えを明確にもち、友達に対して自信をもって発信できる手立てが必要。(机間指導でほめる、具体化するために声掛けをする。)	・タブレット等を用いて自分の考えをまとめることができてきた。自分の考えを言葉にして残す手立てを取り入れたことにより、話し合いが活発にできるようになってきた。	・自分の考えをまとめるだけでなく、人の考えを聞いて、考えを深め自分なりの言葉でまとめる活動を多く取り入れる。 ・聞き方ナビ、話し方ナビ、発表ナビを活用し、発信力を育成していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。ドリルなどの家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを積極的に発表したり、自分で計画を立てて学習に取り組んだりすることに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の考えを積極的に発表することができる。 ・自分の学習状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるように計画を立て、実践することができる。	・授業の中で、自分の考えをもち、発表したりする機会をできるだけ多くとる。 ・ワークシートやタブレットなどを活用し、児童の思考の過程や学習の振り返りが残るようにする。 ・自分で計画を立て、課題に主体的に取り組む学習を積極的に行う。	・生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気付くような助言を与えたり、振り返りの視点について改善を行ったりする。	・全学年共にタブレットの使用頻度は上がった。 ・グループ学習を積極的に行うことで子どもが自分の意見を明確にし、積極的に意見交換を行うことで学習意欲が高まった。 ・タブレットを活用して、視覚的にわかりやすくまとめるなど、主体的な活動ができるようになった。	・タブレット使用の技能に個人差がかなりあるので、スキルアップのための手立てや技能習得のための時間を設ける必要がある。 ・自分で計画を立てて主体的に課題に取り組むことに課題があるため、学習の進め方を系統的に指導したり、課題解決学習に取り組ませたりする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

